

～インタビュー～

見守ってくれる存在、ありがたい

聞き手 東京・編集委員 芳賀 芳美

芳賀：簡単な自己紹介をお願いします。

M：匿名希望 1995年5月生まれ、現在27歳、女性。両親と弟と祖母の5人家族で同居しています。

心理学に興味を持ち、大学は心理学部へ

芳賀：中学や高校卒業時、その後の大学卒業時には、将来の夢や希望など、どのように描いていましたか？

M：中学・高校時代では周囲の友人たちも含め、あまり深く考えてなかったように思います。何かに対して強く憧れるということもなかったため、ひとまず進学して何か見つかったらいいかと考えていました。

大学は、高校時代に心理学に少し興味を持ったため、全く興味がない分野で学ぶよりはいいと考え、心理学部へ進学しました。入学当初は、学んだ内容を活かす仕事をすべきではないかと考えていたのですが、学び始めてからの心理学に対する意識の変化や入学前に想像していたものとのギャップ（文系の内容か

と思っていたところ、実は理系に近かった）が激しかったため心理学を活かす職種は厳しいと感じたことと、また接客アルバイト等の経験から、心理学を活かす仕事ではなくとも、多くの人と関わる仕事をしたいということは、漠然とではありますが考えるようになりました。

学んだことを活かす仕事は、学部内で二人程

芳賀：当時も今も就職難に変わりありません。同級生や友人たちも含めて、就職についてどういう思いですか？

M：友人たちと共に様々な会社説明会に行き、就職活動についての話をする機会は何度もありましたが、大で学んだことを活かす仕事をめざすという人は、学部内でも二人ほどでした。理由を聞くと、大体が私と同様に、思っていた内容との差異が激しかったため、学部で学んだこととは違う仕事がしたいと思

つっていたようで、「それ以外の業種であれば」と広い範囲の業界を見ていたと、自分自身も含めてそう思いました。

緊急クレーム等多々あり、常に悩み続けた

芳賀…大学卒業後に、民間の職場で働いたと聞いています。その職場、仕事を選んだ理由は何でしょうか？
また、働きやすい職場でしたか？

M…前述した通り、当時は人と関わる仕事をしたくないなあと考えていたため、接客に関する求人を探していました。そんな時、大学内で行われた合同企業説明会にて、私が通う大学の卒業生も在籍しているという会社の説明会に出席し、役員の方々とお話する機会があり、それが切欠（きっかけ）でその会社へ就職することになりました。

職場については、私が配属された店舗に関しては、人間関係が非常によく、休みの日でも店舗近くを通ることがあれば顔を出すほど仲も良かったのです。しかし、その業界全体に共通する課題として「クレーム件数が非常に多い」という問題があり、また配属店が地域内で一番売り上げのあった店舗であったために、実際に私自身が対応しなければならぬ緊急

のクレーム等多々あり、その点に関しては配属後から常に悩み続けていました。

芳賀…その後、体調不良などでその職場を辞めたと聞いています。その時に、「無理しなくてもよい」「あなたのことはあなたが決めてよい」と、両親は優しく声掛けと見守りし続けてくれたようですね。率直な気持ちをお聞かせください。

M…辞めることになった当時は、ただただ後ろ向きな感情ばかりであったため、具体的にどのような気持ちであったかというのは、正直自分でもあまり覚えていません。ただ、少し感情に整理がついて来たときには、見守ってくれている存在がいるというのは有難いことだなと感じます。

芳賀…最後に、最近、悔しかったこと、怒ったことがありますか？ 逆に大変嬉しかったことがありますか？

M…特筆すべき出来事は思い浮かばないです。

芳賀…急なお願いにも拘らず、ご協力ありがとうございました。